



仙台市立鶴が丘中学校

第1学年通信 第7号 令和5年6月9日

～援(えん):応援する側,される側,どちらも学びがあります～

中総体に向けて,学年で志気を高めました。

6月7日に体育館で市中総体壮行式が行われました。先輩たちと共に入場する1学年の選手たちは、緊張気味でしたが大変立派でした。8日には、学年での壮行式を行いました。選手たち一人一人が決意を述べ、応援団と生徒たちがエールを送りました。

勝つ喜び、負ける悔しさ、選ばれた嬉しさ、サポートの大切さ、自分の強み、自分の弱さ、実力差の実感、次への目標・・・中学生だからこそ味わえる経験の一つがこの中総体であると思います。応援する側、応援される側、どちらであっても学ぶことの多い3日間になると思います。

「自分はこうありたい！」に気付く貴重な経験と捉え、全力で取り組んでほしいと思います。



(先輩方へ応援のメッセージ)



(学年壮行式で決意を述べる選手たち)



(応援団と生徒たちのエール)

道徳の授業では,心を磨いていきます。

道徳「傍観者でいいのか」内容

Aさんは、Bを含めたグループから、からかいを受けていた。それを知っていたが何も言わず何もしなかった学級委員の私や、その他のクラスメイト。その中のCさんは私に対し「Aさんを放っておけない」ときりだす・・・。

このようないじめの状況を作らないために私たちはどうすればよいでしょうか。

- ・思っていることをそのまま口にしないで、言っている言葉なのかを判断して言えば、相手を傷つけることもなくていいと思いました。
- ・しっかりと断る。周りで悪口を言っていたら注意をする。自分に何かされたら・・・と考えずにいけないことはいけないとしっかりと発言する。
- ・勇気を出して助ける。いじめがおこらないように誰とでも話すようにする。
- ・怖がらずに、まずは何人かの人と一緒に注意をする。
- ・いじめをなくすというのは不可能かもしれないが減らすことはできるから頑張る！
- ・「誰かがしてくれる」「自分もいじめられるかも」と思うまえに、実際にいじめられている人のことを考えなければならないのだと思った。
- ・いじめた側を責めるだけでなく、いじめられた側に寄り添うのも大事だと思いました。
- ・いじめにどう気付くか、気付いたらどう行動するかを改めて考えられました。どうしたら人を傷つけないようなクラスを作れるかも考えられました。